



# JR福知山線脱線事故から17年 「命と安全」を守るため～責任追及から原因究明へ！

2005年4月25日、107名の尊い命が犠牲になり562名が重軽傷を負ったJR福知山線脱線事故から17年を迎えようとしています。新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年から追悼慰霊式は中止となっていました。今年3年ぶりに開催されます。運輸安全委員会の事故調査報告書では、事故の原因として「**会社による懲罰的日勤教育や懲戒処分等の運転士管理方法が関与した可能性が考えられる**」と報告されています。

JR西日本では事故後に入社した社員が半数を超えており、事故を風化させないために事故の教訓とそれに基づく対策（【例】日勤教育の見直しで、**事故やミスで列車の遅延が起きても社員を処分しない「非懲戒制度」**）を導入した経緯などを明確化し、社員の安全教育を行ってきています。しかし、JR西日本は、2020年に男性運転士（故人）に対して入庫作業で**1分間の遅延を理由に賃金カットしたことが明らかになりました**。ミス厳しく責める企業体質が事故の原因にも関係していると指摘されてきただけに「**JR西日本の体質が変わっていない**」との声が多く出されています。

JR東日本においても羽越線脱線事故をはじめ多くの事故・事象がこれまでもありました。悲惨な事故の経験や教訓をどう継承していくかは大きな課題であり、二度と悲劇を繰り返さない体制の確立がご遺族の願いでもあります。**JR東労組は「命」を絶対的価値基軸とし、組合員、鉄道・バス利用者の「命」を守るために語り継いでいくことが重要**だと考えます。人間はミスをするものです。ですから、ヒューマンエラーを完全に防止することはできません。ヒューマンエラーは作業を終えるまでの時間がない時、作業が単調すぎるまたは複雑すぎる時、組織に安全重視の考えや空気が欠落している時、生産性・効率性・スピードばかりが重視される時などに起こりやすくなるとされています。

私たちの仕事や職場の中でもそのような状況はないでしょうか？生産性向上、効率化が進められ、仕事量が増えゆとりがなくなっていないでしょうか？ヒューマンエラーが発生した時にどこに原因があるのかを深掘りし、それを踏まえて起きにくい仕組みや環境を作り、少しずつエラーを減らしていくことでヒューマンエラーを極力減らしていくことは可能です。

このように人間の特性に合った安全管理や教育、本音で何でも話せる環境や職場風土の実現を目指していきましょう！

労働組合として、社員と乗客の「命と安全」を守るため、発生した事故や事象に対して原因究明の議論を深め、「**責任追及から原因究明**」への安全文化の定着と再発防止に向けた職場風土の実現を目指そう！  
**「おかしいものにはおかしい」とみんなで声をあげていこう！！**